2026 年度 総合地球環境学コース 科目一覧

科目名称	配当年次	単位数	レベル	科目概要
先端学術院特別研究ⅢA，ⅢB，ⅣA，ⅣB，ⅤA，ⅤB	３前・後 ４前・後 ５前・後	各２	―	研究指導・論文作成指導
総合地球環境学概論	３前	２	Ⅰ	地球環境問題は近年、地球システムの限界（プラネタリー・バウンダリー）として複合的に理解されるようになり、さらに人類社会にとって安全で公正な限界（ジャスト・バウンダリー）という概念が提唱されるなど、問題のとらえかた自体が変わりつつある。このような地球環境問題の本質に迫るためには、従来の学問分野の枠を超える学際的な視点が必要であり、さらに研究者だけでなく市民、行政、企業などを含めた多様なステークホルダーが協働して問題解決をめざす超学際的なアプローチが要請されている。総合地球環境学は、このような視点と方法に立脚して、人と自然の相互作用環を「総合知」として総合的に理解することにより構築される。本講義は、この総合地球環境学の学術的基盤を理解し修得することを目標として、コース所属教員がオムニバス方式により、それぞれの研究の具体例を交えて講義を行う。
総合地球環境学特論	３後	２	Ⅰ	地球環境問題は、人間社会と自然環境の相互作用が機能不全を起こした時に、社会が解決するべき問題として立ち現れる。問題の要因は複雑に絡み合い、解決困難な場合もある。そのような場合には、人文・社会科学と自然科学の両方の視点から問題を多視点的に認識した上で、問題の解決方策を行政・企業・住民など社会の多様な主体と協創する必要がある。本講義では、地球環境問題を認識し、解決方策を協創するための研究方法について、具体例を交えて論じる。
社会共創地球環境学入門	３前	Ⅰ	Ⅰ	日本の農村部における人口減少と高齢化は、社会インフラや地域文化の断絶の劣化をもたらすだけでなく、耕作放棄地の増加による里山景観の荒廃や災害・獣害リスクの増大にもつながり、土地利用をめぐる複合的な環境社会課題となりつつある。この問題に対処する方策として、ワーケーションや地域おこし協力隊のように、都市住民が関係人口となり、地域コミュニティーを活性化する動きが注目を集めている。そのような動きにおいては、産学官民の多様な主体が、それぞれの社会的立場を超えた対話を通じて解決策を共創して、社会に根付かせる必要がある。本講義では、このような社会共創の方法論であるトランスディシプリナリー研究（超学際研究、学際共創研究）の理論と国内外での実践例を、コース所属教員によるオムニバス講義を通して修得する。
総合地球環境学セミナーⅢ、Ⅳ、Ⅴ	３通 ４通 ５通	各Ⅰ	４	地球環境問題は、それぞれに多様な時空間スケールと複雑な因果関係を内包しているため、その解決に資する学術研究も、多様なアプローチと目標のもとに遂行されている。各回のセミナーにおいて、総合地球環境学研究所などの研究機関で実施されてきたプロジェクトの事例に焦点を当て、プロジェクトリーダーまたは参画者から、実証的データをもとに、問題と要因の構造、研究の新しい取り組みの狙いと学術的成果、残された今後の課題を紹介する。(全８回) 目標とするポイント Ⅲ：様々な取組事例の広がりを知ると同時に、その中にある共通項を自ら見つけだすこと。 Ⅳ：自らの研究のための手がかりを見つけ出すこと。 Ⅴ：自らの研究をまとめる際に必要となる、地球環境研究の標準的な手法や構成要素を学ぶこと。
グローバルサステナビリティセミナー	３･４･５通	Ⅰ	３	本講座では、各学生の指導教員と相談の上決定する国際会議において、若手研究者としての会合への参加またはポスター発表を行うことを通じて、学術的な国際交流やネットワーキングのための基礎的知見やスキルを身につけることを目指す。会議参加の前には、本授業の担当講師による個別指導または少人数のセミナーにより、申請書類およびポスター制作の準備を行う。